

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19730443

研究課題名 (和文) 摂食障害および不健康な食行動の発達に関する研究

研究課題名 (英文) Outcome of individuals with eating disorders and individuals without concurrent eating disorders but suffer from eating pathology.

研究代表者

前川 浩子 (MAEKAWA HIROKO)

金沢学院大学・文学部・講師

研究者番号：10434474

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：摂食障害、体重や体型へのこだわり、食行動・態度、パーソナリティ、きょうだい、仲間関係、非共有環境

1. 研究計画の概要

本研究では精神疾患である摂食障害の危険因子を同定することを主な目的としている。そのため、以下の3つの観点から検討を行うものである。

(1) <摂食障害のある女性と対照群の女性との比較>

摂食障害は有病率が0.5～3%であるため、重篤な精神疾患であるにも関わらず、医療機関にかかる者はそれほど多くない。従って、摂食障害のある女性を参加者として確保することはあまり容易ではないと言える。本研究では摂食障害のある女性約100名のデータを有しており、大変貴重である。これらのデータを用いて、摂食障害のある女性と、摂食障害のない女性50名を比較し、摂食障害のある女性の特徴を心理社会的な側面から検討を行う。

(2) <青年期前期、中期の女子生徒の体重や体型へのこだわりの発達に関する検討>

女子の体重や体型へのこだわりがどのように発達するのかを検討するために、女子中学生、高校生を対象に、食行動・態度と、パーソナリティ、自己評価などについて、2時点での短期縦断研究を行う(1時点目と2時点目の間は約3～4ヶ月間)。

(3) <青年期後期および成人期の女性の体重や体型へのこだわりと抑うつ、ソーシャルサポートに関する検討>

対人関係療法の観点から、摂食障害の発症

や維持には対人的ストレスが関与していることが明らかにされている。青年期後期、成人期の女性を対象に、1年おきのフォローアップ研究を3回行うことで、抑うつなどの得点を調整しながら、対人的ストレスやソーシャルサポートが不健康な食行動に影響を与えるかどうかについて検討を行う。

2. 研究の進捗状況

(1) 神経性無食欲症 (AN) 女性と対照群 (CO) の女性に関して、パーソナリティ、親の養育、仲間関係について検討を行った。パーソナリティに関しては、AN 女性は、CO 女性よりも、損害回避傾向が高く、自己志向が低いことが示された。また、自分ときょうだいを比べて、経験がどのように違うと認知しているかについて、親の養育においては、自分に対して親が冷たかった、などとネガティブにとらえる傾向が見られた。さらに、自分よりも、きょうだいのほうが明るく人気のある仲間関係を持っていた、ととらえる傾向が示された。

(2) 女子中学生の体重や体型へのこだわりと、親友との関係について検討を行ったところ、信頼し、何でも相談できる親友がいない者は、親友関係がうまくいっている者よりも体重や体型へのこだわりが高いことが示され、対人関係の質と不健康な食行動には関連が見られることが明らかになった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

中学、高校から調査の協力が得られ、青年期前期、中期の女子のデータを収集することができている。

また、青年期後期、成人期の女性に関しても、第1時点目の調査で約170名が研究に参加し、第2時点目の追跡調査では142名からの返答があった。やや継続数は落ちたものの、80%の継続率があり、統計的分析には問題がないと考えられる。また、測度に関してもパーソナリティ、食行動・態度、抑うつ、ソーシャルサポート、自己評価、ライフイベントなど、幅広い領域のデータが得られている。

4. 今後の研究の推進方策

これまでに十分な質と量のデータを収集することができているため、解析に力を入れ、学会発表や雑誌論文の刊行など、研究成果の発表に重点を置く必要があると考えられる。また、青年期後期、成人期の女性は今年度が3時点目のフォローアップとなるため、解析に耐えうるデータ収集に努める必要がある。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 前川浩子・宗未来・墨岡卓子・島内智子・大野裕・Kathleen Pike 摂食障害に関連する非共有環境要因の検討：一神経性無食欲症の女性はきょうだいと比較して経験をどのようにとらえているのか？ 金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編, 8, 23-34, 2010 査読無

[学会発表] (計2件)

- ① Hiroko Maekawa Personality factors that differentiate women with anorexia nervosa from women with high body dissatisfaction but no eating disorder in Japan. 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, 2008, Tokyo.
- ② Hiroko Maekawa, Mirai So, Takako Sumioka, Tomoko Shimanouchi, Yutaka Ono, Kathleen Pike. Personality factors that differentiate women with anorexia nervosa from women with high body dissatisfaction but no eating disorder in Japan. International Conference on Eating Disorders, 2007, Baltimore, Maryland, USA.